

クラーク・チャペル

パイプオルガン 奉献コンサート



2011年11月6日（日） 開演14時

同志社大学 クラーク記念館

主催 同志社大学キリスト教文化センター

クラーク・チャペル

パイプオルガン奉献コンサート

次 第

	開会挨拶	理事長・学長 八田 英二
	演 奏	オルガニスト 津田 能人
	司 会	キリスト教文化センター所長 原 誠
	聖書朗読・祈祷	キリスト教文化センター副所長 越川 弘英
※ 讃美歌	(21) 148 「全地よ、主に向かい」	一 同
聖 書	詩編100編1-5節	越川 弘英
祈 禱		越川 弘英
開会挨拶		八田 英二
パイプオルガン ・演奏者紹介		原 誠
演 奏		津田 能人
Intermission		
演 奏		津田 能人
閉会挨拶		原 誠

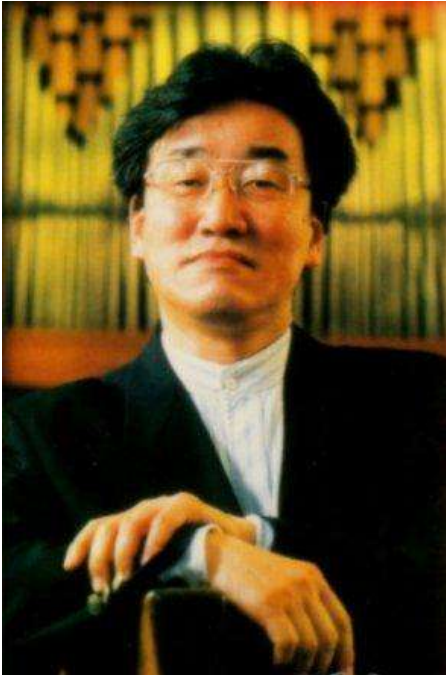
お願い

※の箇所では、お立ちいただける方はお立ちください。

演奏に先立ち、携帯電話の電源はお切りください。

演奏会途中の入退場は、ご遠慮ください。

～ 演奏者プロフィール ～



津田 能人

Tsuda Yoshito

武蔵野音楽大学オルガン科卒業。秋元道雄教授に師事。卒業後、ドイツ政府給費留学生（DAAD）として国立ケルン音楽大学に入学し、ペーター・ノイマン氏に師事。

- 1983年 フランス、アビニヨン国際オルガンフェスティバルに招かれて演奏。同時にフランス国営放送（FM）で放送される。
- 1985年 フランス、プロバンス・オルガン・フェスティバルにて演奏。
- 1987年 パリ・ノートルダム寺院にてコンサートを行う。ほか、ドイツ、フランスを中心にリサイタルを行う。
- 1995年 フランス・カルカツソンヌ大聖堂などでリサイタルを行う。
- 1998年 ドイツ・アーヘンの大聖堂などでオルガンコンサートを行う。

その他、NHKホールのオルガンで収録し度々放送されている。現在、同志社大学講師、同志社教会オルガニスト、日本オルガニスト協会会員。

～ Programme ～

N. ブルーンズ / Nicolaus Bruhns (1665-1697) :

「前奏曲とフーガ ホ短調」 Preludium und Fuge e=moll

D. ブクステフーデ / Dietrich Buxtehude (1637-1707) :

「パッサカリア ニ短調」 Passacaglia d=moll BuxWV161

「前奏曲、フーガとシャコンヌ ハ長調」

Praeludium, Fuge und Ciacona C=Dur BuxWV137

J.S. バッハ / J.S. Bach (1685-1750)

「主よ、人の望みの喜びよ」カンタータ 147番より

"Wohl mir, dass ich Jesu habe"(Aus der Kantate 147) BWV147

「いと高きところにまします神にのみ栄光あれ」

"Allein Gott in der Hoeh sei Ehr" BWV676

「小フーガ ト短調」 Fuga g=goll BWV578

J. ラインベルガー / Joseph Rheinbergaer (1839-1901)

「カンティレーネ ヘ長調」(オルガン・ソナタ 11番より)

Cantilene F=Dur aus der Sonate Nr.11 op.148

～ Intermission ～

T. アルビノーニ / Tomaso Albinoni (1671-1751)

「アダージョ ト短調」(弦楽とオルガンのための作品)

Bearbeitung: Remo Giazotto " Adagio g=moll "

(Fuer Streichinstrument und Orgel)

L.N. クレランボー / Louis-Nicolas Clérambault (1676-1749)

「フーガ」(コルネのストップで)

「ナザール」(ナザールのストップで)

「カプリース」(グランジュのストップで)

Livre D'orgue "Fugue-Récit de Nazard-Caprice(Sur Les Grands Jeux)"

曲目解説ノート

- 1) 「前奏曲とフーガ ホ短調」 ブルーンズ (1 6 6 5 - 1 6 9 7)
北ドイツ・オルガン楽派の巨匠、ブクステフーデの弟子で作曲家、ヴァイオリン奏者でもある。32歳という若さで亡くなった天才的なオルガニスト。当時のオルガン作品には複数のフーガが備わっていて、全体を「前奏曲とフーガ」と呼んでいる。この作品にも2つのフーガがある。この曲の中にヴァイオリンを弾きながらオルガンを弾いたというエピソードのような部分があります。

- 2) 「パッサカリア ニ短調」 ブクステフーデ (1 6 3 7 - 1 7 0 7)
北ドイツ・ハンザ都市、リューベックの聖マリア教会のオルガニスト、作曲家である。特にオルガン音楽の面では、J.S.バッハ以前の最大の巨匠といわれる。パッサカリアとは3拍子のスペインの舞曲から由来している楽曲であるが、低音に同じ旋律を持つ変奏曲である。

「前奏曲、フーガとシャコンヌ ハ長調」

ブクステフーデの作品の特徴は、情熱と劇的かつ幻想的な作風によって際立ち、若いバッハに絶大な影響をおよぼした。シャコンヌも同じく低音に繰り返して出てくる旋律で、曲をしっかりまとめている。シャコンヌ、パッサカリア（3拍子、スペインの舞曲）は当時良く使われた形式であった。

- 3) 「主よ、人の望みの喜びよ」(カンタータ 1 4 7 番より) バッハ (1 6 8 5 - 1 7 5 0)

この作品はオルガン用の曲ではない。カンタータ147番（かなり長い曲）の中で、前半と後半に2回出てくる、有名なコラールです。オーケストラと混声4部の合唱がついています。オルガン用に編曲をしていますが、なかなか決定版がありません。今日のアレンジは Harvey Grace です。

「いと高きところにまします神にのみ栄光あれ」

オルガンでトリオの形式で書かれています。つまり、右手、左手、足（ペダル）この3つが自由自在に動くという奏法です。ヴァイオリン2本とチェロ1本、またはフルートとオーボエファゴットという具合に3人で演奏する形式です。讃美歌21＝37番にもありますが三位一体の神を讃美しています。礼拝ではグローリアに相当する部分です。

「小フーガ ト短調」

バッハはワイマール（1708－1717）、ケーテン（1717－1723）とライプツヒ（1723－1750）と時代ごとに作風も変わっています。若い頃の作品には「トッカータとフーガ、ニ短調」の様に、先輩のブクステフーデのような斬新さがみられます。イタリアの様式も取り入れ、ヴィヴァルディーの協奏曲をオルガンに編曲もしています。「小フーガ」もこの頃の作品で、短調ですが明るい気分が伝わってくるようです。

4) 「カンティレーネ ヘ長調」(オルガン・ソナタ11番より)

ラインベルガー (1839-1901)

ドイツ・ミュンヘンの作曲家・オルガニスト。すこしバロックから離れてロマン派後期の作品です。オルガン作品では対位法の大家として多くの作品を書いています。管弦楽曲、オペラ、合唱曲、室内楽曲、ピアノ曲など多岐にわたる。「カンティレーネ」とは歌という意味で、美しい旋律を巧みな和声法で書かれています。

5) 「アダージョ ト短調」(弦楽とオルガンのための作品)

アルビノーニ (1671-1751)

アルビノーニはイタリア・ヴェネツィアに生まれて、この地で活躍した。ヴィヴァルディと並ぶ18世紀前半の最も重要な作曲家の一人である。この曲にはいろいろな秘密がある。アルビノーニは2つのテーマとベースの動きのアイディアを出しただけでしたが、Remo Giuzotto という人が「オルガンと弦楽合奏」のために作り直したということらしい。有名な曲ですが、当時の音楽としては余りにもロマンティックである。

6) 「フーガ、ナザール、カプリース」

クレランボー (1676-1749)

フランスの「古典」の作品。フランスではバロックという言い方をしません。クレランボーはバッハと同じ頃ベルサイユ宮殿、ルイ王朝の時代に活躍したオルガニスト。華やかで気品に富んでいる。3曲ありますが、「フーガ」はホルネというストップを使用し、「ナザール」はこのオルガンにもあります“ナザール”を使い、最後の「カプリース」は「グランジュ」(全部を使って)を使うように指示があります。つまり、フランスの古典は「ストップの為に楽曲が作られている」ということになるのでしょうか。

津田 能人

詩編一〇〇編 一―五節

さんか かんしゃ

賛歌。感謝のために。

ぜんち しゅ む

全地よ、主に向かつて喜びの叫びをあげよ。

よろこ いわ しゅ つか

喜び祝い、主に仕え

よろこ うた みまえ すす で

喜び歌って御前に進み出よ。

し しゅ かみ

知れ、主こそ神であると。

しゅ しゅ つく

主はわたしたちを造られた。

わたしたちは主のもの、その民

しゅ やしな ひつじ む

主に養われる羊の群れ。

かんしゃ うた しゅ もん すす

感謝の歌をうたって主の門に進み

さんび うた しゅ にわ はい

賛美の歌をうたって主の庭に入れ。

かんしゃ みな

感謝をささげ、御名をたたえよ。

しゅ めぐ ふか いつく

主は恵み深く、慈しみはとこしえに

しゅ しんじつ よよ およ

主の眞実は代々に及ぶ。

GENEVAN 100 (OLD 100TH)
曲：ジュネーブ詩編歌、16世紀

原：ジュネーブ詩編歌、16世紀

1 全地よ、主に向かい 喜びの声をあげよ。
よろこびの歌を 主にたずさえゆけ。

2 造られし者は 知れ、主こそ神と。
われらは主のもの、主のひつじの群れ。

3 感謝の歌うたい 進め、主の門に。
み名をほめうたい、主の庭に入れ。

4 みめぐみは深く あわれみはとわに
変わらぬ眞実は 代々にゆるぎない。

(頌栄) たたえよ、主の民、みつかいと共に、
恵みにあふれる 父・子・聖霊を。

詩100 エレ31：10 ヨハ10：7

クラーク記念館 クラーク・チャペル パイプオルガン

仕様

規模：8ストップ、二段手鍵盤とペダル

第一手鍵盤	C-g3	56鍵
1. Diapason	8'	C-F 木管
2. Hohlflöte	4'	
3. Nasat	2 2/3'	
4. Cornet	2'	1-2 fach

第二手鍵盤	C-g3	56鍵
5. Gedackt	8'	
6. Hohlflöte	4'	2. と共通
7. Flautino	2'	

ペダル	C-f1	30鍵
8. Subbass	16'	

パイプ総数：410本
アクション：メカニカル
トレモロ：両手鍵盤
カプラー：I/P, II/P, II/I
送風機：100V, 60Hz
製作：マティスオルガン製作株式会社（スイス）
輸入：株式会社望月オルガン



オルガン組み立ての様子

